

自由民主さくら 齋藤 寛之 会派討論

昨年度までの敬老事業予算4200万円が地区社協別基礎額20万円+世帯単価30円×自治会加入世帯数として450万円の補正予算が提出されました。

一般会計補正予算18億8,293万9千円に対し老人福祉費「おじいちゃん・おばあちゃんありがとうの気持ちを伝えたい事業(敬老会事業)」に対する450万円の予算を白紙撤回する修正案が可決

自由民主さくらの意見

今回の予算内容では地域格差を生み開催が困難な地域ができる可能性があるため修正案に賛成。

計画・実行を地域に任せるのであれば、予算の使い道も高齢者が楽しみにしている飲食等も含め地域の現実的な要望に即した予算編成を求めました。



齋藤 寛之 徳永 由美子 山本 英司 石井 秀明

子ども達の未来に責任を持ち、世代を超えて温かな人の輪と笑顔で暮らせる地域社会のために4人で力をあわせて市民に寄り添う政策会派として活動して参ります。

一般会計補正予算に対するその他の意見

① 産婦健康診査事業

84.8%の受診率を更に向上させ、産後ケアとの連携を強化することで産後うつや虐待予防につなげること。

② 里親制度普及啓発事業

今までに7組の受入れがある。里親制度の普及が求められている。

③ 佐倉市スマートオフィスプレイス(コラボサクラ)

指定管理へ移行するまでに女性の使いやすさや固定利用者の獲得を高めること。オープンスペースを利用者にとって使いやすい形に柔軟に対応し、需要を増やしていくこと。

佐倉市市民協働の推進に関する条例の一部を改訂する条例の制定についての意見

「小学校区単位を基準とした地域まちづくり協議会を認証支援する制度から、隣接する2以上の自治会が自発的に設立する地域まちづくり事業実施団体を認証し当該団体が行うまちづくり事業を対象として支援する制度に改めるもの」



会計処理を担当する市民の負担が大きいため、担当職員や地域在住の職員が関わるなど、市民の負担軽減とサポートについて引き続き検討が必要である。

自由民主さくら 山本 英司 代表質問

市長の政治姿勢について

問 オール佐倉という言葉をよく使われているが、具体的な内容は。

答 市民、市議会議員、市内業者及び各種団体などの様々な方々と知恵を出し合いながら市政運営を進める。

問 自助、共助、公助による安心、安全なまちづくりについて伺う。

答 市民の皆さんへ自助、共助の重要性を「こうほう佐倉」防災特集号、防災ガイドマップ等による周知や、各地域の防災訓練等における防災講話や避難場所運営訓練などにより伝えている。

道路問題について

問 神門交差点の渋滞解消のための右折ラインの設置についての進捗状況は。

答 今年度は、交差点の佐倉方面側において、

両側の歩道約210メートルの整備を実施する。

問 国道51号線は四街道市も酒々井町も4車線になっている。佐倉市だけ2車線のままだが、4車線化の促進について伺う。

答 経済や地域の活性化、防災、減災対策など様々な観点から必要性を訴え、国や県に継続的に要望活動を行う。

庁舎の建て替えについて

問 建築後50年近くの庁舎は老朽化が進み、バリアフリーにも十分対応ができていない。今後の方針について伺う。

答 庁舎の建てかえについては、平成29年に策定した公共施設等総合管理計画においても検討の必要があるとされており、建てかえに向けての検討を開始すべき時期であると考える。

空き家バンクについて

問 農村地域の過疎化対策の一環として、新規就農者へ空き家を紹介するという佐倉市の取り組みは私も評価しているところですが、耕作放棄地の減少や農家人口を減らさないためにも空き家バンク制度は有効だと思います。もっとこの制度を利用してもらうためにも企業誘致助成金の制度のように、農村地域の空き家を買って転入して来る家族などには、固定資産税等を減免する制度はできないか。

答 税負担の公平性などの課題もあるので、慎重に研究していく。

